北海道羅臼高等学校

羅高 DX ニュースレター

第１号／R6.7.10 発行

羅臼町 DX 説明会を実施

羅臼高校で羅臼町教育関係者向けの DX 説明会を行いました！

令和６年７月 10 日（水）に、羅臼町教育委員会、町内幼稚園長、小学校長、中学校長、中標津町の中央コンピューターサービス株式会社生涯学習事業部、計 18 名のみなさまに来校いただき、本校で現在検討している「地域 DX」について校長から説明をさせていただきました。

羅臼町では「幼小中高一貫教育(ESD)」として、知床の自然や羅臼町の地域社会について学ぶ「知床学」を核に据えた、独自の教育に取り組んでいます。幼稚園から高校までを貫く教育課程というのは全国的に見ても珍しく、羅臼の教育の大きな特徴となっていますが、その運営に際しては校種間のさまざまな「壁」があり、スムーズにはいかない部分があります。特に校種によって使っているシステムが異なり、せっかくの電子データも共有手段がなく活用が進めにくい等の課題がありました。

このような中、私たち道立学校側では校務 DX、学びの DX を現在進めており、学校内で蓄積している DX の経験やノウハウを、そのまま地域にも広げられないか、と考えました。校務 DX で実現している業務効率化や働き方改革は、地域 DX でも同じような効果が期待されるはずです。

この説明会では校長から GWS の特徴や、導入のメリット、将来像などを説明し、いくつかの質疑応答もしながら、課題の整理などをしました。特に導入のメリットの部分についてはみなさん一様に感じ取っていただいたようでした。本校ではチャットを活用して教職員の業務負担を大幅に軽減していますが、羅臼町の教育関係全体でもチャット導入によって大幅な効率化や意思疎通の確実性の向上など、効果が期待されるだろうという見解で一致しました。

一方、道立学校と町教委・町立学校とでセキュリティに関する考え方やガイドラインのあり方に多少違いがあり、道立学校側のスタンスだけでは壁にぶち当たってしまうという面も見えてきました。DX は便利である一方、セキュリティ面の不安から安全対策が欠かせないものであり、不適切な利用から事故につながるケースも予め想定しておく必要があります。このため、道立学校側のガイドラインと、義務教育側のガイドラインのすり合わせ作業をきちんと行った上で、改めて「羅臼町教育 DX ガイドライン」のようなものを策定して、これに則った形での安全な運用をすることが求められます。

こういった準備をしながら、年内に基盤を整え、来年１～３月期に「プレ運用」、４月から本格運用につなげるという方向性を確認しました。

「羅高の DX」ページが道教委「ICT 活用ポータルサイト」からリンクされました

ICT 教育推進課から連絡があり、本校 DX ページが道教委 ICT ポータルサイトの「実践事例」のひとつとして加えていただけることになりました。このことにより、本校ホームページのアクセス数がこの１週間で 6,000 ほど増加しており、注目されているようです。

DX に関する情報は、各省庁や自治体、研究機関、民間企業などから多種多様なものが提供されておりますが、実際の学校現場からの情報は比較的少ない状況があります。本校は特に研究指定を受けておらず、学校単独で独自の DX を進めておりますが、ホームページでの情報発信をとおして、何かみなさまのお役に立てることがあればうれしいということと、みなさまからの忌憚のないご意見をぜひお聞かせいただきたい、という２つの思いがあります。新鮮な情報をこれからもお届けできるよう尽力したいと考えています。

道教委 ICT 活用ポータルサイトの画面